

診断基準と対応（外来・入院）

診断名	診断基準	外来	入院	院
1 異常なし	尿蛋白及び潜血がつねに(-)～(±)であり、尿沈渣R(赤血球)4コ/F(視野)以下、円柱(-)。他の検査成績はすべて(-)。	必要なし	必要なし	なし
2 良性蛋白尿	早朝尿の蛋白、潜血がつねに(-)。随時尿のみ蛋白(+)以上、潜血(-)。他の検査成績はすべて(-)。	必要なし	必要なし	なし
3 微量血尿	早朝尿、随時尿ともに尿潜血(+), 沈渣R5～10/F。尿蛋白(-)～(±)。他の検査成績はすべて(-)。	経過観察 1回/2～4週	必要なし	なし
4 無症候性血尿	尿潜血(+)(#), 沈渣R10～20/F以上。蛋白(-)～(±)。円柱(-)。他の検査成績はすべて(-)。	経過観察 1回/2～4週	入院し腎機能, I・Pなど尿赤血球の多い症例に行う, 又症例により腎生検。	
5 腎炎の疑い	尿沈渣R10～20/F以下でとくに随時尿のRが増加している。蛋白(+)(#), 定量にて100mg/dl以下。その他の検査成績はすべて(-)。	経過観察 1回/2～4週	症例により入院精検。その結果④⑥⑦にうつるものもある。症例により腎生検。	
6 急性腎炎	尿沈渣R5/F以上。蛋白(-)～(+)以上。先行疾患の明らかなもの。 血圧上昇, ASO上昇, 一過性の低補体などの所見のあるもの。	治ゆれば必要なし	入院精検と同時に治療開始	
7 慢性腎炎	尿沈渣R10～20/F以上で尿蛋白(+)以上, 定量にて100mg/dl以上のもの。 前年度の検査所見, 家族歴を参考にする。	経過観察 1回/2～4週	入院精検要すれば治療。できるだけ腎生検。	
8 ネフローゼ	尿蛋白(+)～(##)以上。血清総蛋白, A/G比の低下, 血清総コレステロールの上昇などの所見のあるもの。	寛解退院後も外来にて長期観察	直ちに入院精検治療をはじめ。できるだけ腎生検。	
9 尿路感染症の疑い	尿中白血球が20～30/F以上がつづけてみられ, R4/F以下のもの。	症例による	症例により入院精検, 治療。	
10 その他の他	糖尿病, 腎性糖尿(尿糖陽性), 偏腎性高血圧症(血圧の高度の上昇)などがわかることがある。		それぞれの病名により処置入院精査を要する。	